

豊中・サンマテオ姉妹都市

# 提携ニュース 2018



<http://www.city.toyonaka.osaka.jp/>

豊中・サンマテオ姉妹都市協会

<http://www.cityofsanmateo.org/>

Sister City Association of Toyonaka-San Mateo

第48号



Sister City Association of Toyonaka-San Mateo

# 親善使節サンマテオ市訪問記



第45回高校生英語弁論大会の成績優秀者、石井優帆さんと本郷鯨さんが、豊中・サンマテオ姉妹都市親善使節として2017年8月4日から8月11日までサンマテオ市を訪問しました。

Welcome to

# San Mateo

## 豊中市長賞 石井 優帆さん



待ちに待った出発の日が、ついにやってきました。約9時間のフライトを終え、サンフランシスコ空港に到着すると、ホストファミリーが温かくぼくたちを迎えてくれました。

「親善使節の石井くん、ようこそサンマテオへ」と書かれた横断幕を目にしたとき、初めてのアメリカ西海岸にわくわくすると同時に、自分は豊中、そして日本を代表してこの地を訪れているのだということを強く認識させられたことを今でもおぼえています。しかし不安はまったくありませんでした。



両都市の関係をより良いものにし、お互いをさらに深く知ることが、今回の訪問の第一目的であることは大前提ですが、僕にとってアメリカの人々に自分という人間を知ってもらい、またアピールするチャンスでもありました。その最たる例が、サンマテオ市議会でのスピーチ発表です。自分の被災経験から学んだ、生きることの幸せ、そしてそこから生まれた将来の夢を語った5分間は、まさに「楽しかった」の一言でした。スピーチの後にはたくさんの方々からお褒めの言葉を頂き、なかには「涙が出た」とまで言ってくださった方もいました。スピーチを通し、アメリカ人に対し英語で自分の思いを伝えることを通して得た自信は、間違いなく僕の近い将来で役立つでしょう。



この経験は豊中市とサンマテオ市の友好関係があったからこそできたもので、あの場を設けてくださった方すべてに感謝しています。それと同時に、この関係を維持、そしてより良いものにしていくための活動にぼくもかかわり続けたいとおもっています。ぼくは以前、正直サンマテオのことをよく知らなかったけど、サンマテオの人々の豊中への関心の高さには本当におどろかされました。「豊中からの親善使節です」と伝えと、それだけで会話が弾み、店では割引などのサービスをしてもらえることもありました。それに比べると豊中でのサンマテオの知名度は高いとは言えないのが実情なので、もっと多くの人にサンマテオのことを知ってもらいたいと考えています。1週間という時間は本当に短かったですが、その中でぼくのところに1番残っているものは、美しい街並みや



ゴールデングेटブリッジではなく、人々の温かさです。特に

長い時間を一緒に過ごし、たくさん話し、様々な場所を訪れたホストファミリーがぼくにくれた優しさは絶対に忘れられません。ぼくは英語を話しますが、そんなことは重要ではありませんでした。人間はハートです。そのことを17歳で知っているぼくは、これからどんなことでも成し遂げられる、そう確信しています。



San Mateo City  
ReportWelcome to  
San Mateo

## 豊中・サンマテオ姉妹都市協会会長賞 本郷 鯨さん

この度、豊中・サンマテオ姉妹都市親善使節として任命して頂いたことを光栄に思います。



今回の訪問で私が大きく実感したことは、アメリカのおおらかさです。訪問前でもおおらかさの認識はありましたが、実際に訪問し、生の知識や経験を得ることができました。

どんなことにおおらかさを感じたかといいますと、何かにつけて私が「経験したことがない」とファミリーに伝えたと、じゃあやってみよう、食べよう、行こう、となんでもさせてくれるのです。ペットの犬の散歩、蟹、フローズンヨーグルト、メキシコ料理。小さな初体験ではありますが、なんでも挑戦しようとする気質には感心するばかりでした。広大なアメリカの国土が、アメリカ人におおらかさを与えているのでしょうか。

サンフランシスコに向かうハイウェイから見た、地震でできたという断層の湖や、ゴールデンゲートブリッジ、太平洋は圧巻でした。とある丘からはサンフランシスコの街並みが一望できました。どれも日本では類を見ない光景だと思います。自分の小ささが実感できます。

食事にもおおらかさが表れていました。マッシュドポテトやハンバーグ、サーモンの料理を作ってくださいましたが、どれも自由に取って、と

いう形式でした。ここにもおおらかさが表れているように感じます。日本と味も似ていて、本当に過ぎやすかったです。

さらに外食の時、驚いたことに注文する際値段を気にしている様子がありませんでした。私がいる前だったからとは思えません。みんなそうなのです。特に、オーダーメイドハンバーガーが4人前で75ドルというのは衝撃でした。

サンマテオ市vs豊中市の野球観戦も初体験のうちの一つです。アメリカではフットボールや野球等、チームプレーが盛んな一方、日本の国技は剣道、弓道、相撲というように、個人競技が主です。ここでもアメリカの気質が見て取れました。

私がおおらかさを実感できたのは、日本におおらかさが少ないことを実感しているからです。受験生として感じるのは、日本では受験合格のためだけに勉強を強いられることが多いということです。日本人の意識に、もっとおおらかな、人間になるために学ぶという意識があれば、世界最先端の発想力も生まれるであろうに、と強く思いました。私が英語を学ぶ理由は、将来西洋の医療技術を日本に輸入するためですが、今回の体験を経て、恵まれたこの言語を通じて、アメリカのおおらかな気質も日本に持ち込みたい、と思うようになりました。

ホストファミリーの方々や、サンマテオ市職員、豊中市職員の皆様、現地の方々に助けられっぱなしの一週間でした。英語の下手な私を相手に、ゆっくり言い直してくれたり、スマホで和訳してくれたり、優しく接してくださいました。また必ず戻ってきます。本当にありがとうございました。



# 豊中・サンマテオ少年野球親善交流事業

## 2017

Baseball



### 豊中親善少年野球団がサンマテオ市を訪問しました。

豊中市とサンマテオ市との少年野球チームの交流が始まったのは昭和54年(1979年)。平成29年(2017年)8月8日～16日、今年で10回目の訪米となる豊中親善少年野球団が、豊中市の姉妹都市である、アメリカ合衆国カリフォルニア州サンマテオ市へと旅立ちました。豊中市少年野球連盟の杉浦会長が団長を勤める、20名の選手たちと、引率する8名のコーチ・監督からなる、総勢28名の訪問団は現地の少年野球チームと親善試合を行いました。台風のため予定よりも一日遅れでの出発となった一行は、8月8日に無事にサンフランシスコ国際空港に到着し、ホームステイで現地の暮らしを体験しながら同世代の野球選手らと交流を深めました。

海外経験は初めてという選手たちも多数いる中で、言葉や生活習慣の違いに適應できるかと、不安もあったかもしれませんが、野球の試合になると不安も緊張も忘れて一人ひとりが全力を出し切ったようです。豊中チーム対サンマテオチームの親善試合の結果は3勝1敗。最終の一戦は、両チームの選手もコーチもミックスしてのゲームを楽しみ、より一層両国の距離が近づいた時間となったことでしょう。



サンマテオ市日本庭園にて



今年で10回目の  
訪米





## San Mateo City Report



「聞くと行くとでは大違い!!」と杉浦団長。実際にサンマテオを訪問することでしかわからない交流の楽しさと、この歴史ある事業が培ってきた両市の継続的な友好関係を、直接肌で感じることができる素晴らしい時間だったと報告してくださいました。そして、交流はこれからも続いていきます。来年2019年は、サンマテオから豊中への来訪が10回目となる記念の年となります!! これまでに派遣された200名に上る選手だけでなくホストファミリーや関係者など、豊中・サンマテオ少年野球親善交流事業に関わってこられた皆さんが集い、記念の交流事業を迎えられるように願います。サンマテオ市滞在中にお世話になったホストファミリーと過ごした時間が、今後の選手たちにとってかけがえのないものとなり、この経験が新しい世界へのおおきな一歩となることを期待します。



Host family



ホストファミリーとの出逢い



Host family



## サンマテオ姉妹都市訪問記 (2017)



2017年8月4日～8月11日私をはじめ山本貴子南丘小学校教員、福水あやさん(2011ホストファミリー)がサンマテオ市を親善訪問しました。今年は豊中ガールスカウト(代表 村上深雪さん)の子どもたちからサンマテオ寺子屋の摺木優子さんに絵手紙作品の交換をするなど新たな親善交流を行うことができました。一方で、サンマテオ・フォスター教育学区教育庁では、大源教育長のメッセージを持参し、ローサス教育長を表敬訪問し、姉妹都市友好提携校の校長先生たちやスタッフのみなさんとも懇談会を開催しました。エド教育財務部長とも学校間交流の充実発展を確認することができました。また、ジャパニーズガーデン管理責任者のシェーラさん、ボランデノさんには、セントラルパーク日本庭園の案内やペレスフォードパーク・レンガ通りでサンマテオクラブ顕彰碑の説明していただきました。今後とも、豊中市・サンマテオ市相互の文化交流と友好が促進され、ますます素敵な姉妹都市交流となりますよう願っております。

豊中市職員サンマテオクラブ会長 永原 武敏

# 第46回

# 高校生英語弁論大会

The Annual English Speech Contest

2018年1月27日(土)、豊中・サンマテオ姉妹都市協会主催の「第46回高校生英語弁論大会」をとよなか男女共同参画推進センターすてっぷホールで開催し、13校30人の応募の中から一次審査を通過した10校20名の出場者がスピーチを発表しました。



## 第46回 英語弁論大会の受賞者

賞	受賞者	高校名/学年	演題
豊中市長賞	小林 麗子	梅花高等学校	Never Give Up! あきらめないで!
豊中・サンマテオ 姉妹都市協会会長賞	狩俣 めぐ実	梅花高等学校	How I found my dream 夢との出会い方
国際ソロプチミスト 特別賞	池田 優里	梅花高等学校	Life and Death 生と死
優秀賞	池谷 七	梅花高等学校	Love Yourself For Who You Are ありのままの自分を大切に
優秀賞	鈴木 志歩	大阪市立南高等学校	What do you live for? あなたは何を求めて生きていますか?

審査は、大阪女学院大学教授のブライアン・ティーマンさん大阪女学院短期大学部准教授のウィリアム・クラインさん、当協会監事の川合隆子さんの3名により行われました。



豊中市長賞  
小林 麗子さん



豊中・サンマテオ姉妹都市協会会長賞  
狩俣 めぐ実さん



国際ソロプチミスト特別賞  
池田 優里さん



優秀賞  
池谷 七さん



優秀賞  
鈴木 志歩さん

豊中市長賞は、「自分の抱いた夢に向かって努力をし続けていますか？あきらめず前に進むことが大切」と観客に呼びかけた梅花高等学校の小林麗子さんを受賞され、豊中・サンマテオ姉妹都市協会会長賞は、「異文化を体験することでより広い視野が得られ、そのことは自分の夢の実現への大きな一歩につながる」と自身の経験について発表された、梅花高等学校の狩俣めぐ実さんが受賞されました。また、国際ソロプチミスト特別賞は梅花高等学校の池田優里さん、優秀賞には梅花高等学校の池谷七さんと大阪市立南高等学校の鈴木志歩さんが受賞されました。

今回も難しい審査を引き受けてくださった3人の審査員の方々からは次のような講評をいただきました。

川合隆子さん：内容として取り上げているテーマも、分野がさまざまどれも興味深く、今回も審査は大変難しいものでした。文章になっても一語一語を丁寧に発音することが大事だと思います。これからもぜひ引き続き英語に興味をもって何事にも取り組んでほしいです。

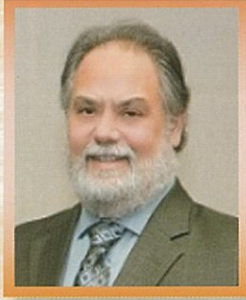
ブライアン・ティーマンさん：「自己観察」というのはスピーチ上達の重要なスキルの一つです。スピーチコンテストの練習では、本番と同じようにマイクを使って自分自身の声を聴いてみてください。声は大きすぎるか、弱すぎるか、聴衆にとって自分の声はどんなふうに聞こえているのかを確認しながら練習することはとても大事なポイント。次にチャレンジするときにはぜひ実践してみてください。

ウィリアム・クラインさん：この大会に出場するために努力した自分のためにも、今後も大いに英語を使い英語力を高めて自分の人生を豊かなものにし、周りにいる仲間を引っ張っていくような存在になってほしいと願っています。2018年豊中・サンマテオ姉妹都市親善使節に任命された、小林麗子さんと狩俣めぐ実さんのお二人は2018年8月にサンマテオ市へ派遣されさまざまな交流活動に参加する予定です。



新市長はリック ボニーラさん

2017年12月にサンマテオ市議会の改選があり、新市長は Rick Bonillaさんに決定しました。



市長:Rick Bonilla



副市長:Diane Papan



議員:Maureen Freschet



議員:Joe Goethals



議員:Eric Rodriguez



2018年度事業計画(案)

- ・2018年度総会・役員会(6月)
- ・サンマテオ学生親善使節2人の豊中市訪問(7月予定)
- ・豊中・サンマテオ姉妹都市親善使節2人のサンマテオ市派遣(8月予定)
- ・豊中・サンマテオ女子ソフトボール親善交流事業(10月)
- ・第47回高校生英語弁論大会の開催(2019年1月26日)
- ・広報活動の推進
  - 姉妹都市提携ニュース(第48号)の発行
  - その他協会の目標達成のために必要な活動